

に役送の命婦御盃をもて御手長に傳ふ、御手長御陪膳に傳ふ、御陪膳御前に居ゆ、次に初獻三つ肴を供す、御盃を御左の方へ押よせて、初獻を御前に供す、次に御銚子を持て參る、御盃をとらせ給ひ一獻を供す、御陪膳御盃を御銚子にすゑて下段に出て、第一の典侍の座前に置き本の座につく、手長の命婦進みよりて、次第にとほす次に御盃を持て參る、初獻の如し、御陪膳とりて御前の御盤にすう、次に二獻ばうざうを供す、三つ肴を御右の方へ押のけて二獻を中心居ゆ、御銚子を持て參る、御箸下り御盃參る一獻、女中へも次第にとほる、又御盃出る、此度は典侍より勾當内侍まで天盃給はるべき料に、あひの土器を重ねながら取て御盤に居ゆ、次に三獻御鰯ひらを供す、二獻を撤して三獻を中央に居ゆ、次に御手長の内侍、御銚子を白散の許にもて行き、屠蘇白散を入れ、御陪膳に傳ふ、御箸下る、御盃供す三獻、三獻めに御加へあり、御前の御盤を御右の方へ押やりて、女中に給る天盃を敷居の上に雙べ置く、女中へ天酌にて給ふ一獻、勾當内侍迄天盃給りて、第二の内侍は第一の典侍の盃をこひとり、第三の内侍は第二の典侍の盃を傳ふ、かくの如く次第にとほすなり小のり、命婦は簾臺に入らざる故に、下段の南の東の一間の障子より出て南庇をへて、簾臺の南の東の一間の障子より入て給はる也、次第に給はり終りて、御陪膳御前を撤す、次に入御なる、三ヶ日、七日、十五日、立春等皆同じ。

三日○中 御祝 夕方の御祝元日に同じ、けふは内々の男方に御盃を給ふなれば、三獻女中御とほしおはりて、男方めさる、南庇の御障子の開たる所より入り、中段の兼て設たる中央の御盤の所に到り、小盃を取り御前に進む、天酌にて一獻給はり、本の座に返り飲み、南の御障子のほとりにある小盃の許に至り、小土器に強供御を入れ、御障子を出て、南庇にて次の人には強供御を傳ふ、最末の人御盃を給はり、御障子をさして退く、夫より熊の間にて各へ御末廣を給ふ、勾當内侍傳ふ、